



シリーズ
タンチョウ
Vol. 340

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

吉田 裕志

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



「タンチョウの足に何かついてる？」 タンチョウのバンディングについて

タンチョウを観察していると、ふと「ツルは千年って言われているけど、実際は何歳まで生きるのだろうか?」「冬場には鶴居村の給餌場に集まってくるけど、夏場はどこにいるのだろうか?」など、疑問に思うことはないでしょうか?実はそういったタンチョウの生態に関する疑問を明らかにするために行われている取組みがあります。それが「バンディング」です。もしかすると、皆さんの中にも番号が書かれている足環のついたタンチョウを見かけたことがある方がいるかもしれません。タンチョウのバンディングは、その足環をタンチョウに取り付ける取組みのことです。足環をつけることによって、個体ごとの見分けが難しいタンチョウを、足環の番号によって見分けることができます。見分けができるようになれば、主に目撃情報により、その個体の年齢や、移動の経路など様々なことが分かります。

タンチョウのバンディングは、飛ぶことのできる親を捕獲することは大変難しいため、まだ飛ぶことのできないヒナを捕獲して行います。ただ、ヒナとはいえ警戒心の強いタンチョウを捕獲するのは一筋縄ではいきません。タンチョウのヒナは脚から発達するためなかなかの韋駄天ですし、水辺を泳いで逃げたり、親鳥の指示で茂みに隠れたりもします。そんなタンチョウを捕獲するためには、人間のチームワークの良さが重要になります。トランシーバーを使用して、司令塔の指示を聞き、タンチョウの位置やほかの人の配置などを確認しながら少しずつ追い込んでいきます。大昔にマンモスの狩りをしていた人たちもトランシーバーはないにしろ、こんな感じだったのかなぁなどと想像します。

先日、そんなタンチョウのバンディングに私も参加してきました。標茶方面と根室方面での2度のバンディングに参加しましたが、根室方面でのバンディングでは、タンチョウ捕獲の瞬間に携わることもできました。

捕獲した場所は根室の温根沼です。ここでは水辺にタンチョウの親子が出てきていたので、陸側と湖側の両方から挟み込み、陸側で捕獲する計画でした。私はカヌーに乗って湖から追い込んでいく役目でしたが、早い段階でヒナが湖を泳いで逃げてしまい、急遽、カヌーで追いかけて湖上で捕獲する作戦に切り替わりました。それまではゆったりカヌーを漕いで様子をうかがっていましたが、トランシーバーで「カヌーで捕獲」の指示が入ってからは、全力モードに切り替わり、腕をパンパンにしながらカヌーを漕ぎました。何とか追いついたところで、そこが浅瀬だったこともあり、船を降りてヒナを抱きかかえ、無事捕獲となりました。捕獲したヒナの足環番号は「464」です。これまでの記録によると、温根沼や風蓮湖のあたりで繁殖しているタンチョウは、冬場に鶴居の給餌場に顔を出すことが多いとのこと。この冬、お互い元気に再会できることを心から願っています。



バンディングの様子

(タンチョウ保護研究グループ提供)

※形態や成長状況等の記録のために撮影しています。